

東北福祉大生大崎、涌谷でワークショップ

地域活性化に
若者の視点を

東北福祉大総合福祉学部の大崎市と涌谷町で行われた。福祉が地域課題の解決策を考える「プロジェクト実践活動」が、行政学部の学生計42人が参加し、行政学部長や民生委員らにヒ



車座になって地域課題の解決策を探る学生
＝大崎市古川の高倉地区公民館

住民と意見交換、課題学ぶ

アソビを通して、住民とのワークショップを通して生の地域課題に触れた。

ワークショップは、いずれも6月28日に開催。学生8人が参加した大崎市古川地区では、高倉地区矢目行政区の奥山茂美区長(70)から水害で助け合った地域のつながりを「矢目元気まつり」という形に発展させたことなどを元に将来像を考えた。

1年の斎藤百々花さん(19)は「少子高齢化が進む高倉地区の姿は生まれ育った角田市に似ている。若い人が関わり続けられる仕組みを考えたい」と話した。学生たちは市の福祉行政や社会福祉協議会の活動について学んだ後、車座になり地区の課題や

魅力について話し合った。

涌谷町では3カ所で活動が行われた。学生4人が参加した日向地区では、住民13人と一緒に健康体操を楽しみながら意見交換した。遠藤守区長(71)は「自治会活動のメンバーが固定しているのが課題。学生の意見を聞きながら地域を活性化したい」と話した。

学生たちを指導する松井克明准教授(地方財政)は「地域住民のつながり・結び付きが地域共生社会の原動力になる。学生の提案を地域の活動に役立ててほしい」と語った。

大崎市の課題については12日に市役所で、涌谷町については26日に仙台市青葉区の同大ステーションキャンパスでそれぞれ報告会を開く。

(山崎敦、川村公俊)



健康体操を通して住民と交流した
＝涌谷町の日向公会堂(町提供)